



▲東体カーポート型太陽光発電

環境・地域エネルギー

公共施設に再エネ・省エネ・蓄エネ設備を導入し、舞鶴版RE100を目指しています。

無駄なエネルギーを無くすため、エネルギーマネジメントシステムを導入し、使用電力等を監視する取組を進めています。

経済産業

舞鶴市の新たなビジネス創出の場、交流の場として整備した「Coworkation Village MAIZURU (コワーケーションビレッジまいづる)」を拠点に、子どもたちを対象とした体験教室等を企業を講師に招いて開催しました。



総合学習

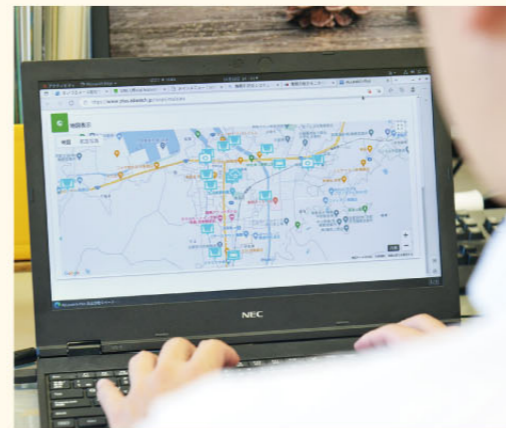
出前授業や総合的な学習を通じて次世代を担う子どもにSDGsについて知ってもらう取組を進めています。



「SDGs」(持続可能な開発目標)は、2015年に国連サミットにおいて採択された、2030年までに達成すべき17の目標と169のターゲットからなる国際目標です。

日本では、地方創生につながる地方公共団体によるSDGsの取組を更に推進していくため、優れた取組を提案する都市を「SDGs未来都市」、またその中でも特に先進的な取組を「自治体SDGsモデル事業」に選定しており、舞鶴市は2019年に提案した民間企業や教育機関等との多様な連携による先進技術を活用した持続可能なまちづくりが「SDGs未来都市」(全国31都市)及び「自治体SDGsモデル事業」(全国10都市)に選定されました。

現在、「環境・地域エネルギー」「モニタリング」「地域共生」「経済産業」の4つの分野において取組を進めています。



モニタリング

(スマート一次産業、防災)

- ・センサー技術等を活用して河川水位等が見える化。スマホやパソコンを通して市民の方々も分かりやすい情報収集が可能になりました。
- ・センサー等の先進技術を活用して農業や漁業就業者のノウハウをデータ化。収穫量の向上や新規就業者等の担い手の確保につなげます。

地域共生 (memo)

新しいIT技術(アプリ)を活用して、住民同士の送迎マッチングを実施。市民の外出機会を創出し、既存の公共交通を補完する役割を目指しています。

